

ジャズの躍動、熱狂が。

1990年代から2000年代にかけて、福博の音楽シーンに鮮烈な印象を与えた米国発のジャズクラブが福岡市にあった。惜しまれつつ閉店したが、会場で愛されたピアノが今も福岡県内で美しい音色を響かせ続けている。ピアノをめぐる「モノ語り」とはー。

1990年にオープン 音楽ファンに親しまれ

福岡県久留米市善導寺町。筑後川に近いこの地区に、概観も愛らしいミュージックサロン「クラヴィアート音楽館」がある。ピアノ調律師、武内喜美郎さん(65)が経営。平屋建て、面積約50平方メートル。室内に入ると、美しいグランドピアノが目飛び込んできた。

世界的なピアノメーカー、スタインウェイ&サンズ社が製造した「コンサー

アーティストの 音づくり支える 調律、メンテナンス

調律はどのように行われていたのだろうか。

基本的に公演当日に実施。1日2回公演の時にはそれぞれ公演前に行われた。武内さんは外国人アーティストと英語で会話を重ねるなどしながら作業。アーティストたちの説明は抽象的な

活躍の場、新たに 地域で親しまれ

同店は途中で経営主体が変わり、店名も「ビルボードライブ福岡」と変わった後、2009年に惜しまれつつ閉店した。愛情込めて世話してきたピアノの購入を武内さんは決意。ピアノが活躍する場をつくるため、調律師として働く傍ら準備を重ね、約5年後にミニホール「クラヴィアート音楽館」を開設した。建物の天井を高くし、吸音パネルやスピーカーを設置するなど音響環境も整備。現在、ピアノ教室やコンサートなどがここので開かれている。

かつて世界的なアーティストが情熱的な演奏をぶつけた鍵盤。今は次代を担う子どもたちが練習曲を奏でることもある。「最高の音に触れてほしい」。新たな活躍の場を得たピアノは、今も物語を紡ぎ続けている。

福博の音楽シーン彩った 「スタインウェイの ピアノ」

数々の名演奏を支えたピアノ



たけうち・きみお 1954年生まれ。国内の調律師養成機関で学び調律師に。88〜90年に渡り米国人調律師の下でスタインウェイピアノの調律について学ぶ。90年代後半にはドイツでスタインウェイの技術研修を受ける。本ピアノの音色のデジタル保存や活用にも関心を寄せる。

トグランドピアノ モデルC。スタインウェイピアノには米国の工場で作られたものと、ドイツの工場で作られたものがあるが、このピアノはドイツ製。かつて福岡市中央区天神にあったジャズクラブ「ブルーノート」で数々の演奏家に使われた。

同ジャズクラブは1990年にオープン。本場米国スタイルの生演奏が楽しめる店で、国内外のトップアーティストが出演、音楽ファンに親しまれた。当時を知る人によると、ピアノは会場用の国内で購入され、出演するアーティストの繊細な要望に応えるため調律も頻繁に行われた。

武内さんは、ピアノを納品した企業を紹介し調律を行うことになった。久留米市で育ち、楽器店を経営していた親の勧めもあり調律師になった武内さん。米国やドイツでスタインウェイピアノの調律技術を学んだ経験が生かされた。

スタインウェイ用のチューニングハンマー



ことも多く「やりとりをしながら音を作っていく感覚でした」と振り返る。抽象的とは、例えば「この辺の鍵盤の音はブルーに。こっちはピンクかな」とか、「この辺りは華やかに。この辺は熱く」とか、「この辺はコロコロという感じ」とか。

激しい演奏ゆえ本番中にピアノの弦が切れることもあり、基本的に終演まで待機していたという。

では、このピアノと他のピアノでは何が違うのだろう。特徴として、①公共ホールなどに比べて演奏回数が格段に多い、②食事などしながら音楽を楽しむライフハウスのため、湿度や温度が変化しやすいなどがあり、ピアノにとって決してコンディションの良い環境ではなかったという。細やかなメンテナンスは必須で、毎回の調律に加え、ピアノのアクション機能などを点検する「整調」は年に数回、ピアノを分解し部品を修理交換する大がかりな「オーバーホール」は約5年に1度行われたそうだ。

ジョー・サンプル、トミー・フラナガン、マッコイ・タイナー、ディプ・グルーシン…。そうそうたるアーティストがこのピアノを弾いた。いつしか出演者がピアノにサインを書いていくようになった。



クラヴィアート音楽館

音楽館内に置かれているピアノ。静かに時を刻んでいる

【メモ】

■クラヴィアート音楽館は福岡県久留米市善導寺町飯田貸しホール(有料)としても利用可能。詳しい情報はサイト(https://clavivart.com/)、0942(47)1000。

●この企画への「意見」感想をお寄せください。(宛先)TEL0942-8722(住所不問)

西日本新聞社メディアプランニング部

「博多モノ語り」係

企画・制作／西日本新聞社メディアビジネス局

出演者のサインやメッセージが記され、これまでの歴史を物語る